

緩和ケア病棟での非がん患者の受け入れ促進には支援体制が必要 ～施設への意向調査から～

がん患者に限らず、心不全、呼吸不全、認知症などの非がん患者に対する専門的な緩和ケアは世界的にも重要とされていますが、日本では非がん患者が緩和ケア病棟（PCU）へ入院することは少ないと言われています。しかし、その実態や、PCUで働く医師や看護師等の医療者が、非がん患者を受け入れる際に必要と感じている支援については明らかになっていませんでした。

本研究では、日本における非がん患者のPCUでの入院の現状と受け入れに必要な支援、およびPCUでの非がん患者の受け入れに関する各施設の意向や支援について調査しました。その結果、PCUの15.2%で、非がん患者を受け入れた実績があることが分かりました。また、75%の施設は、PCUで非がん患者を受け入れるためには、現在の医療保険では極めて低額の入院費用の給付となっているため、がん患者と同等の入院費用が給付されることが「必要」とし、これが給付される場合、59.1%の施設が、非がん患者の入院を「受け入れる」と回答しました。

非がん患者をPCUで受け入れる意向がある施設は、そのための支援として、入院基準を明確にすること、非がん疾患の緩和ケアに関する教育・研修システムの確立、そして、院内の専門家から支援してもらえる体制、などが必要と考えていることが分かりました。

この結果は、日本における非がん患者に対する専門的緩和ケアの現状を明らかにするとともに、より多くの非がん患者が専門的緩和ケアを受けられるために解決すべき課題を示しています。今後、国や学術団体などが協力して、これらの課題に対する具体的な検討を進めることが必要と考えられます。

研究代表者

筑波大学 医学医療系

濱野 淳 講師

研究の背景

世界保健機関（World Health Organization：WHO）は、重篤な疾患を持つ全ての患者、家族に対して緩和ケア（注1）が提供されるべきと2014年に声明を公表しています。がん患者に限らず、心不全、呼吸不全、認知症などの非がん患者に対する専門的な緩和ケアは世界的にも重要とされていますが、日本では、非がん患者が緩和ケア病棟（PCU）へ入院することは少ないと言われています。しかし、実際に非がん患者がPCUへ入院している実態や、PCUで働く医療者が、非がん患者を受け入れる際に必要と感じている支援の実態は明らかになっていませんでした。

そこで本研究では、2022年1月に、日本ホスピス緩和ケア協会に加盟する施設のうち、PCUを持つ施設を対象に郵送式無記名アンケート調査を実施し、非がん患者のPCUでの入院の現状と受け入れに必要な支援、およびPCUで非がん患者を受け入れることに関する各施設の意向などを調査しました。

研究内容と成果

このアンケート調査では、381施設中264施設から回答を得ました（回答率69.3%）。これらの施設の平均PCU病床数は 21.2 ± 7.9 床であり、31.8%の施設は、患者の80%以上が他院から紹介された患者であると回答しました（表1）。

また、15.2%の施設は、2020年度にPCUで非がん患者を受け入れた実績があり、それらの疾患は、慢性呼吸不全（34人、12施設）、慢性肝不全（33人、6施設）、慢性心不全（24人、9施設）などでした（表1）。

さらに、75%の施設は、PCUで非がん患者を受け入れるためには、がん患者と同等の入院費用が医療保険で給付されることが「非常に必要」「必要」であると考えており、59.1%の施設が、がん患者と同等の入院費用が給付される場合、非がん患者がPCUに入院することを「希望する」「やや希望する」と回答しました（表2）。非がん患者をPCUで受け入れる意向がある施設は、そのために必要な支援として、各疾患について入院基準を明確にすること、非がん疾患の緩和ケアに関する教育・研修システムの確立、そして、院内の専門家から支援してもらええる体制、などを挙げていました。

これらの結果は、日本における非がん患者に対する専門的緩和ケアの現状を明らかにするとともに、より多くの非がん患者が専門的緩和ケアを受けられるために解決すべき課題を示しています。今後、国や学術団体などが協力して、これらの課題に対する具体的な検討を進めることが必要と考えられます。

今後の展開

本研究は、日本における非がん患者のPCUでの入院の現状と受け入れに必要な支援、およびPCUで非がん患者を受け入れることに関する各施設の意向を明らかにした初めての調査です。今回の結果が、より多くの非がん患者が専門的緩和ケアを受けられるための体制整備に活用されることが期待されます。

参考図

表 1 回答した施設の特徴

	n	%
病床数 (平均値±標準偏差)		
病院全体の病床数	335.8 ± 229.9	
緩和ケア病棟の病床数	21.2 ± 7.9	
2020 年に他院から紹介された入院患者の割合		
100%	13	4.9
80%以上 100%未満	71	26.9
60%~80%未満	42	15.9
40%以上 60%未満	28	10.6
20%以上 40%未満	32	12.1
20%未満	61	23.1
なし	8	3.0
非がん患者の入院があった	40	15.2
慢性心不全患者の入院があった	9	3.4
慢性呼吸不全患者の入院があった	12	4.5
慢性肝不全患者の入院があった	5	1.9
透析を伴わない慢性腎不全患者の入院があった	2	0.8
透析を伴う慢性腎不全患者の入院があった	5	1.9
難治性神経疾患患者の入院があった	3	1.1
認知症患者の入院があった	3	1.1

表 2 非がん患者の PCU 入院費に対する医療保険適用の必要性と非がん患者の入院受け入れの意向

	全施設 (n=264)		非がん患者を 受け入れている 施設 (n=40)		非がん患者を 受け入れていない 施設 (n=224)	
	n	%	n	%	n	%
非がん患者の PCU 入院費に対する 医療保険適用の必要性						
とても必要	157	59.5	20	50.0	135	60.3
必要	41	15.5	8	20.0	33	14.7
少し必要	36	13.6	7	17.5	29	12.9
必ずしも必要ではない	10	3.8	1	2.5	9	4.0
必要ない	12	4.5	3	7.5	9	4.0
全く必要ない	5	1.9	1	2.5	4	1.8
無回答	3	1.1	0	0.0	5	2.2
医療保険による入院費負担を前提とした 非がん患者の入院受け入れの意向						
非常に意欲的	34	12.9	9	22.5	24	10.7
意欲的	70	26.5	12	30.0	57	25.4
多少なりとも意欲的	52	19.7	8	20.0	43	19.2
やや意欲的でない	62	23.5	5	12.5	57	25.4
意欲がない	30	11.4	2	5.0	28	12.5
全く意欲がない	11	4.2	2	5.0	9	4.0
無回答	5	1.9	2	5.0	6	2.7

用語解説

注1) 緩和ケア

緩和ケアとは生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族の QOL を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチであるとされています。(2002年 WHO)

参考 URL https://www.jspm.ne.jp/recommendations/individual.html?entry_id=51

研究資金

本研究は、日本学術振興会 科学研究費の一環として実施されました。また、本研究のアンケート調査の実施に際しては、日本ホスピス緩和ケア協会および日本緩和医療学会の協力を得ました。

掲載論文

【題名】 Current situation and support need for non-cancer patients' admission to inpatient hospices/palliative care units in Japan: a nationwide multicenter survey

(緩和ケア病棟での非がん患者の受け入れの実態について)

【著者名】 Jun Hamano, Yasuo Shima, Yoshiyuki Kizawai

【掲載誌】 Annals of Palliative Medicine

【掲載日】 2023年1月11日 (オンライン先行公開)

【DOI】 10.21037/apm-22-743

問合わせ先

【研究に関すること】

濱野 淳 (はまの じゅん)

筑波大学 医学医療系 講師

URL: <https://trios.tsukuba.ac.jp/ja/researchers/3463>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp